

白ねぎ管理情報 No. 2

令和6年3月19日
J A アルプス
富山県富山農林振興センター

2月下旬～3月上旬にかけて平均気温は平年より低く、降水量は多く、日照時間は少なかったため、ほ場が湿っている状態が続いており、適期定植が難しい状況となっています。天気予報及びほ場の乾き具合を確認して計画的に作業を行ってください。（詳細は「令和6年産白ねぎ栽培マニュアル」のP13～18を参照）

1 苗の追肥

- 育苗後半（は種後45日経過）に、天候等ではほ場の乾きが悪く定植が遅れると予想される場合は、苗の活力を維持するため、5日おきに液肥（「野菜の達人」500倍液[水1Lに対して肥料2gを溶かす]）をかん水代わりに施用する。

2 目標とする定植時の苗

- 定植時の苗は、本葉2枚、草丈15～20cmを目標とする（図1）。
- 苗を外気に慣れさせるため、定植前に順化处理を行う。（白ねぎ管理情報No.1を参照）
- 苗が軟弱気味に生育している場合、草丈が20cm程度でも葉が垂れてしまう場合がある。定植後に葉が地表に接してしまうと、霜害（図2）を受けやすくなる。そのため、定植5日前に草丈12cm程度になるように剪葉する。

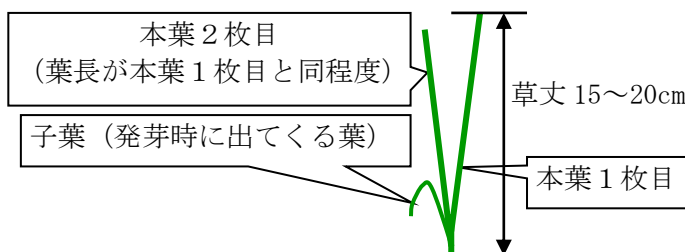


図1 目標とする定植時の苗



図2 霜害を受けたねぎ

3 定植前の萎凋病対策

- 定植直前のかん水を兼ねて、「トリフミン水和剤」200倍を1箱当たり薬液1L灌注する。

4 定植時の害虫対策

- 植え溝に「ダイアジノン粒剤5」と「アドマイヤー1粒剤」を施用する。

薬剤名	10a 当たり使用量	使用時期	IRAC コード
ダイアジノン粒剤5	4～6kg	播種時又は定植時	1B
アドマイヤー1粒剤	4kg	定植時	4A

（裏面に続く）

5 定植直後の雑草対策

- ・定植後（10日後まで）に「ゴーゴーサン乳剤」をほ場全面に散布する。
- ・散布直後に激しい降雨があると、除草剤の効果低下、ねぎへの薬害が懸念される。そのため、降雨が予想される場合は使用を避け、別の日に散布する。

薬剤名	10a 当たり 使用量	10a 当たり 散布液量	使用 回数	使用時期
ゴーゴーサン 乳剤	200～300mL	100 L	1 回以 内	定植後（雑草発生前） （但し、定植 10 日後 まで）

6 定植前の排水対策

- ・地下排水を向上するため、サブソイラ等で、横方向又は斜め方向に、深さ 30～40cm の弾丸暗渠を 2～5 m 間隔で設置する（図 3）。
- ・地表排水を向上するため、スクリューオーガ等で、ほ場周囲に深さ 25cm 以上の額縁排水溝を設置する。
- ・排水溝の水がほ場外に排水されるよう、額縁排水溝は必ず水尻につなぐとともに、水尻は深く掘り下げる（図 4）。

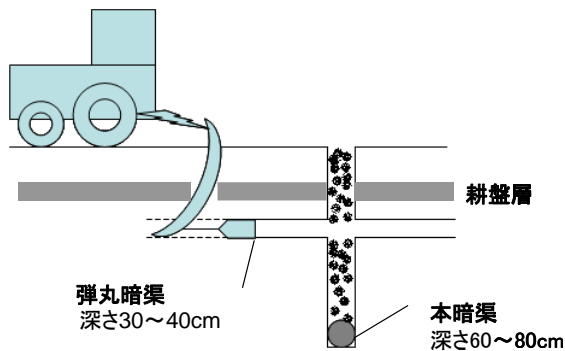


図 3 弾丸暗渠施工のイメージ



図 4 水尻の連結と掘り下げ

7 排水対策

- ・降雨による水が植え溝から排水溝までスムーズに流れるよう、植え溝、額縁排水溝、排水口をそれぞれつなぐ（図 5、6）。



図 植え溝に水が溜まった様子



図 5 植え溝を額縁排水溝へ
しっかりつなぐ



図 6 額縁排水溝の連結部を
しっかりつなぐ

【問い合わせ先】

JA アルプス営農部 営農企画課

TEL: 076-472-5480

富山県富山農林振興センター 園芸振興班 担当: 目黒

TEL: 076-444-4523